

高校再編に積極的な方々の意見	高校再編に慎重な方々の意見
<p>1 高校再編に対する基本的な考え方</p> <p>(1) 基本となる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編について、地域活性化は二の次であり、あくまでも教育ということを考えて進めてもらいたい。 ・ 主役は子ども達であることを忘れてはならない。 ・ 高校再編は子どもファーストで考えていくべきで、高校生の教育環境をどのように整備、充実させていくのが基本だと思う。 ・ 主役は生徒たちであり、生徒の将来を見据えた環境を我々大人や保護者が提供する必要がある。 ・ 子ども達の良い教育環境を最優先に考えるべきで、再編は避けて通れないと認識している。 ・ 高校は地域の文化・歴史を作る場所ではあるが、それ以上に、高校生の未来を創るための場所であることが存在の意義である。 ・ 高校時代は、社会で自立した大人になるための準備期間であることから、切磋琢磨することが非常に重要であり、高校再編は進めるべきものである。 ・ 高校生には多様な経験や教育に触れてもらうことが大切であり、ある程度の規模を確保してあげることがすごく大切である。 ・ 高校時代に、多くの人と出会い、交流し、人間力を高めるためには、一定以上の学校規模が必要であり、高校再編は止むを得ない。 ・ 生徒数が激減しており、最低限の教育効果や部活動が確保できないという現実を考えれば、高校の統廃合は止むを得ない。 ・ 今後、生徒数が減少することは明確であり、教育の効率化ではなく教育の充実の観点から、一定の条件を満たさない高校については、統合を図ってもらいたい。 ・ 高校の教育環境を整え、県内企業の担い手やリーダーを育成するためには、一定の規模が必要であり、高校再編はやむを得ない。 ・ 部活動は人間形成等に大きな役割を果たしている。そこでは、多くの部員が切磋琢磨して、より高い目標を目指すことが大事であり、一定の学校規模が必要である。 ・ 県内の市町村では小中学校を統廃合しており、教育環境を整える必要性を考えると、高校だけ例外とするわけにはいかないのではないかと。 ・ 高校再編の必要性については、環境が変化する中で、教育の質を高め、今の時代にあった形に切り替えていくということが、一番の原点にある。 	<p>1 高校再編に対する基本的な考え方</p> <p>(1) 基本となる視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創生には、各高校の活動が大きく貢献しており、現在の高校群が有する多様な機能をこれまでどおり果たすことを望んでいる。 ・ 井波高校が閉校し、住民からは、地域で高校が担っていた地域力がなくなったと聞き、高校と自治体の関係の深さを改めて実感した。 ・ 高校は地域のアイデンティティのひとつであり、町から高校がなくなることは、地域の子ども達、住民にとって大変不幸なことである。

高校再編に関する論点整理

高校再編に積極的な方々の意見	高校再編に慎重な方々の意見
<p>(2) 地域活性化と高校</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小学校、中学校とは違い、<u>県立高校は生徒の土着性がなく①</u>、1自治体1高校にこだわる必要はない。・ 1つの市町に1校配置するより、高校時代にいろいろと経験を積ませることが、自分たちの子ども、地域の子どもたちにとって大事である。・ 高校があるから、自動的に人口減少が抑制されるということではなく、地域活性化についての学びは、小中の9年間でフォローできる。・ 高校再編は例外なく実施してもらいたい。それが子ども達のためになり、ひいては富山県のためになっていく。・ 地方創生をきちんとやっていけるかどうかは、人づくりにかかっており、教育の質を上げることが地方創生にも通じると思う。 <p>(3) 子ども達の選択肢</p>	<p>(2) 地域活性化と高校</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域の活性化が図られるような配慮が必要であり、「1市町1高校」を保持してもらいたい。・ 各地域の中学生に、地元の高校で学び、地元で根付く機会を提供することも大切である。・ 地域に進学の選択肢がないという状況は、子どもを生み育てる気持ちに歯止めをかけ、少子化に拍車をかける可能性がある。 <p>(3) 子ども達の選択肢</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>大規模校と小規模校の双方を残し②</u>、多様な高校の中から、中学生自身が選択できるような整備、配置することが大切である。・ 3学級以下の学校だけを再編していくと、大規模な進学校だけが残っていくようなアンバランスになるのではないか。・ 県の考えでは、大規模な高校しか存続できず、高校再編ではなくて高校削減という結論ありきの考え方ではないか。・ 3学級の学校に大規模校から1学級を移せば、県内にバランス良く4学級以上の学校が配置できる。

高校再編に積極的な方々の意見	高校再編に慎重な方々の意見
<p>2 小規模校の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地理的に見た場合、富山県は、小規模校を残さなければ高校教育の機会を提供することができない地域が相対的に少ない。</u>③ ・ 中山間地の小規模校は、地元の生徒が通えなくなる可能性があり、配慮する必要があるが、富山県では通学上の不利益は殆ど考えられない。 ・ <u>地方創生に高校が効果的に機能することが十分期待できる場合は、小規模校を残す選択があるが、例外中の例外に限るべきである。</u>④ ・ 各地域も、「こうあるべきだ、このようにして欲しい」ということばかりでなく、どのような協力・支援をし、汗を流すのかという観点も大事である。 ・ 小規模校を残しても質的に高校教育といえる教育の機会を提供したことにはならない。 ・ 高校教育の質を維持し、向上させるためには、一定の学校規模が必要であり、5学級以上の学校規模の方が質の維持向上が期待できる。 ・ 切磋琢磨が生まれ、いろいろな考え方をする生徒が在籍することが、多様な価値観を知るために大変大事で、1学年5学級が良いと思う。 ・ 第4次産業革命が進む中、ロボットやAIで出来ないコミュニケーション能力や理解力などを培うことが重要で、いろいろな人と会い、共同で何かをやる経験が必要である。 ・ また、文武両道が大切で、部活動にも挑戦し乗り越えていこうとする中でいろいろな力が醸成されることから、少なくとも5クラスは必要で、高校再編は進めていくべきである。 <p>3 高校の配置</p>	<p>2 小規模校の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数であっても、生徒同士が切磋琢磨する状況は当然あり、選択教科開設数は教育の質には関係ないので、全ての小規模校を統合することには疑問が残る。 ・ 一定の学校規模を確保すればよいという考え方が先行しているのではないかと懸念している。 ・ 3学級の基準がわかりにくい。小規模校の良さをしっかりと検証してもらいたい。 ・ 学校にとって致命傷になることは避けなければならないが、多少部活動に問題があったとしても、致命傷にならない限り小規模校でもかまわない。 ・ <u>小規模校を廃止するというのではなく、歴史の浅い大きな学校を減らしたほうが小規模校を救うことができる。</u>⑤ ・ 特色ある教育を提供している学校は、小規模であっても必要なのではないか。 ・ 高校再編については、対象となる学校規模の話だけが一人歩きしており、再編後の学校で提供する教育、環境の話も大事だと思う。 <p>3 高校の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校の配置については、公共交通機関を利用して高岡市に多くの学生が集まっているように、一定の通学可能な地理的状況の中で様々な選択ができることが重要である。 ・ 各地域の進学希望生徒数を細かく見て、通学可能な地域内に高校をバランス良く配置する観点から議論を進めてもらいたい。 ・ 中学生が高校を選ぶときは、学力のレベルや距離、特色などの観点から選択できる状況が望ましい。特に女子生徒にとっては、学校までの距離は大きな要因となる。 ・ 望ましい学校規模については、少子化を考えれば一定の理解ができるものの、学校の配置については十分議論されていないのではないか。

高校再編に積極的な方々の意見	高校再編に慎重な方々の意見
<p>4 前期再編の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合後の滑川高校は、学校のイメージは格段に良くなっており、また、生徒同士が学科の枠を超えて切磋琢磨する機会が増えている。 ・前期高校再編では、同じ学年の人数が多いことで、学習面や部活動、人間関係において切磋琢磨する機会が増え、学校自体にも活気が出て良かった。 ・工業高校では多くの学科が併設され、自分の学ぶ学科以外の分野の理解が進むとともに、実習棟や設備が整備され、新技術への対応が可能になった。 <p>5 職業科に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり県である本県では、4地区に、ものづくりを支える工業科単独校が必要である。 ・工業系は何学級必要かや、ニーズが大きい学科をどこに作れば全県的に人を集めることができるのかなどの視点で再編を考えていくことが大事である。 ・工業高校のあり方については、ものづくり立県、富山県として、長期的な計画によって慎重に議論していただきたい。 ・県内企業の担い手育成の観点からは、<u>現在の工業系高校の学級規模を維持し、県内4地域に工業科単独校が必要である。</u>⑦ ・県内就職を増やし、人口減少への対応の観点から、職業科の学級数、定員について検討してもらいたい。 ・県内企業の担い手育成についても、時期から見たら高校が一番大事で、ある程度規模があって、設備なども含めた専門的な学校が必要である。 	<p>4 前期再編の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>前期の高校再編の総括</u>⑥が十分でない中、さらなる再編に動こうとすることは、由々しきものと感じている。 <p>5 職業科に対する意見</p>

高校再編に積極的な方々の意見	高校再編に慎重な方々の意見
<p>6 その他</p> <p>(1) 中高一貫校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果や部活動を確保するには、中高一貫校も選択肢になりうる。 ・中高一貫校という形での存続ということも十分検討する必要がある。 ・トップラインを押し上げていく教育が必要であり、中学受験を前提とした中高一貫校を検討いただきたい。 <p>(2) 再編の際に留意すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の感情や意見を無視するのではなく、聞いた上で、「高校の向かうべき方向はこうだ」ということを強く訴え、例外なく実施してもらいたい。 ・高校がなくなることは、地域にとって大きなインパクトになることから、跡地利用については、子ども達が充実した活動ができる設備・施設を考えてもらいたい。 ・高校の再編統合が余儀なくされるということであれば、地域に対して十分配慮した上で実施しなくてはならない。 ・各学校にはそれぞれ、歴史、伝統、地域の思いもあり、再編にあたっては、市町村との十分な協議を念頭に置いて検討を進めてもらいたい。 	<p>6 その他</p> <p>(1) 中高一貫校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>中高一貫校については、多くの課題はあるが、大きな意義もあり⑧</u>、この選択肢も否定されるものではない。 <p>(2) 再編の際に留意すべきこと</p>

市町村別 中学卒業生の進学先割合一覧(県立全日制高校の過去3ヶ年平均)

単位：%

中学校所在地			新川地区					富山地区	高岡地区			砺波地区			その他	合計		
			朝日町	入善町	黒部市	魚津市	滑川市	上市町	立山町	富山市	射水市	高岡市	氷見市	砺波市			南砺市	小矢部市
高校所在地			1校	1校	1校	2校	1校	1校	1校	13校	3校	7校	1校	2校	3校	1校		
新川地区	朝日町	1校	20	19	10	19	2			7	1						22	100
	入善町	2校	15	28	12	19	1			6							19	100
	黒部市	4校	9	9	26	21	6			8							21	100
	魚津市	2校	8	7	11	30	12	3		8							21	100
	滑川市	2校			4	18	24	9	2	17							26	100
	上市町	1校				11	12	24	4	25							24	100
	立山町	1校				3	7	8	16	36							30	100
	舟橋村	1校				4	13	14	6	36							27	100
富山	富山市	29校					1	1	3	58	1	1					35	100
高岡地区	射水市	6校								16	25	26	1	1		1	30	100
	高岡市	12校								2	10	46	6	4	1	4	27	100
	氷見市	6校								1	1	30	41				27	100
砺波地区	砺波市	4校								1	1	19		28	26	4	21	100
	南砺市	8校								1		12		23	41	1	22	100
	小矢部市	4校									2	26		16	8	27	21	100

※ 「その他」とは、県立定時制・通信制高校、高専、私立高校、就職などを指す。

市町村別 中学卒業生の進学先割合一覧（県内高校・高専の過去3ヶ年平均）

単位：％

中学校 所在地	高校所在地	高校・高専数 (県立全日制) (私学) (定通) (高専)	新川地区					富山地区	高岡地区			砺波地区			その他	合計		
			朝日町	入善町	黒部市	魚津市	滑川市	上市町	立山町	富山市	射水市	高岡市	氷見市	砺波市			南砺市	小矢部市
			1校	1校	1校	4校	1校	1校	1校	21校	4校	11校	1校	2校			3校	3校
			1	1	1	2	1	1	1	13	3	7	1	2			3	1
						1				6		3						
新川地区	朝日町	1校	20	19	10	28	2								5	100		
	入善町	2校	15	28	12	29	1								2	100		
	黒部市	4校	9	9	26	32	6								1	100		
	魚津市	2校	8	7	11	39	12	3							3	100		
	滑川市	2校			4	26	24	9	2	31	1				3	100		
	上市町	1校				15	12	24	4	43					2	100		
	立山町	1校				5	7	8	16	61	1				2	100		
	舟橋村	1校				4	13	14	6	59	2				2	100		
富山	富山市	29校					1	1	3	88	2	1			4	100		
高岡地区	射水市	6校								25	27	43	1	1	1	2	100	
	高岡市	12校								4	12	66	6	4	1	4	3	100
	氷見市	6校								2	3	51	41			3	100	
砺波地区	砺波市	4校								3	1	31	28	26	8	3	100	
	南砺市	8校								4	1	22	23	41	5	4	100	
	小矢部市	4校								1	2	35	16	8	32	6	100	

※ 「その他」とは、就職などを指す。

今後の学級編制の見込み(学級減のみによる対応)

【シミュレーションの条件】

- ・学校規模の大きな学校から学級減とする。
- ・すべての学校が4学級以下となった時点で、順次、3学級以下としていく。

2

H29

平均学級数 4.8

普通科率 67.6%

学級数/学年 (学校数)	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区	
8学級 (1)		富山工業 (工8)			
7学級 (6)		富山 (普5探2)	高岡 (普5探2)		
		富山中部 (普5探2)	高岡芸 (工7)		
6学級 (6)	滑川 (普3工1商1水1)	富山東 (普6)	高岡商業 (商6)	南砺福野 (普4農1福1)	
		富山南 (普6)			
		呉羽 (普6)			
5学級 (6)	桜井 (普3工1家1)	富山西 (普5)		砺波 (普5)	
	魚津 (普5)	富山北部 (普3工1商1)			
		富山いずみ (総4看1)			
4学級 (11)	入善 (普3農1)	八尾 (普4)	小杉 (総4)	砺波工業 (工4)	
	魚津工業 (工4)	水橋 (普4)	新湊 (普3商1)	石動 (普3商1)	
	上市 (総4)		高岡南 (普4)		
	雄山 (普3家1)				
3学級 (7)	泊 (普3)	中央農業 (農3)	大門 (普3)	南砺福光 (普2国1)	
			高岡西 (普3)		
			伏木 (国3)		
			福岡 (普3)		
2学級 (0)					
1学級 (1)				南砺平 (普1)	
学級数	182	35	73	51	23
平均学級数	4.8	4.4	5.6	4.6	3.8
3学級以下校数	8	1	1	4	2

H38

平均学級数 3.8

学級数/学年 (学校数)	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区	
8学級 (0)					
7学級 (0)					
6学級 (3)		A			
		B			
		C			
5学級 (4)		D			
		E			
		F			
		G			
4学級 (17)	A	H	A	A	
	B	I	B	B	
	C	J	C		
		K	D		
		L	E		
			F		
3学級 (13)	D	M	H	C	
	E		I	D	
	F		J	E	
	G		K		
	H				
2学級 (0)					
1学級 (1)				F	
学級数	146 (▲36)	27 (▲8)	61 (▲12)	40 (▲11)	18 (▲5)
平均学級数	3.8	3.4	4.7	3.6	3.0
3学級以下校数	14	5	1	4	4

H43

平均学級数 3.5

学級数/学年 (学校数)	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区	
8学級 (0)					
7学級 (0)					
6学級 (1)		A			
5学級 (4)		B			
		C			
		D			
		E			
4学級 (11)		F	A		
		G	B		
		H	C		
		I	D		
		J			
		K			
3学級 (20)		L			
	A	M	E	A	
	B		F	B	
	C		G	C	
	D		H	D	
	E		I	E	
	F		J		
G		K			
2学級 (1)	H				
1学級 (1)				F	
学級数	133 (▲49)	23 (▲12)	57 (▲16)	37 (▲14)	16 (▲7)
平均学級数	3.5	2.9	4.4	3.4	2.7
3学級以下校数	22	8	1	7	6

富山県の中学校卒業予定者数の推移

		H29年度	H38年度	H43年度
全県	中卒予定者数	10,116	8,131	7,368
	(対H29年度減少数)	基準	▲ 1985	▲ 2748
	(対H29年度減少率)	基準	-19.6%	-27.2%
	学級数	182	146	133
	(対H29年度)	基準	▲ 36	▲ 49
	平均学級数	4.8	3.8	3.5
新川地区	中卒予定者数	1,988	1,506	1,285
	(対H29年度減少数)	基準	▲ 482	▲ 703
	(対H29年度減少率)	基準	-24.2%	-35.4%
	学級数	35	27	23
	(対H29年度)	基準	▲ 8	▲ 12
	平均学級数	4.4	3.4	2.9
富山地区	中卒予定者数	4,064	3,380	3,146
	(対H29年度減少数)	基準	▲ 684	▲ 918
	(対H29年度減少率)	基準	-16.8%	-22.6%
	学級数	73	61	57
	(対H29年度)	基準	▲ 12	▲ 16
	平均学級数	5.6	4.7	4.4
高岡地区	中卒予定者数	2,847	2,237	2,079
	(対H29年度減少数)	基準	▲ 610	▲ 768
	(対H29年度減少率)	基準	-21.4%	-27.0%
	学級数	51	40	37
	(対H29年度)	基準	▲ 11	▲ 14
	平均学級数	4.6	3.6	3.4
砺波地区	中卒予定者数	1,217	1,008	858
	(対H29年度減少数)	基準	▲ 209	▲ 359
	(対H29年度減少率)	基準	-17.2%	-29.5%
	学級数	23	18	16
	(対H29年度)	基準	▲ 5	▲ 7
	平均学級数	3.8(4.4)	3.0(3.4)	2.7(3.0)

※ () は、分校含まず。

※中卒予定者数は、前年度の中学校卒業予定者数を記載。

※中卒予定者数は、H29は学校基本調査(H28.5.1)の在籍者数、H38はH29小学校入学予定者数、H43は人口移動調査(H28.10.1)に基づく推定値

○ 望ましい学校規模において2学級・3学級を含めている県の理由一覧

県名	望ましい学級規模	2・3学級設置理由
長野	<ul style="list-style-type: none"> ・6学級を標準とし、2～8学級 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域唯一の高校で地元中学出身者80% ・通学困難校
三重	<ul style="list-style-type: none"> ・3～8学級 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間部 ・市内進学率約90%以上
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科6～8学級 ・総合学科4学級以上 ・職業科3学級以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学級規模の学校は山間部に設置。 ・地域の中心校まで通学困難な普通科高校 ・地域に1校の職業科単独高校
広島	<ul style="list-style-type: none"> ・6学級を標準 ・中山間地2～6学級 ・中山間地以外4～8学級 	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地

長野県白馬高校の事例

1 白馬高校の概要

- ・ 白馬、小谷地区に立地する高校で、平成27年度まで普通科1学年2学級、定員80名の学校
- ・ 定員充足もままならず、再編統合の対象となって当然と思われていた。
- ・ 平成22年度に白馬村長や小谷村長等による「白馬高校魅力づくり検討委員会」が設置され、平成25年度に観光学科の設置等について、県教育委員会に要望
- ・ 平成28年度から、普通科と国際観光科の2学級で再スタート（国際観光科は全国募集）

○ 白馬高校 入学者数と在籍者数の推移 (単位：名)

年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入学者数	49	54	50	66	76	74
在籍者数	163	155	147	170	192	210

2 長野県が白馬高校を存続させた理由

- ① 白馬、小谷地区は世界的な山岳観光地で、スキー場には外国人観光客が多数訪れていることから、国際観光科の設置による特色ある人材育成が、世界水準の山岳高原観光地づくりに不可欠と判断したため

○ 白馬村 外国人観光延宿泊者数 (単位：人、%)

年度	25年	26年	27年
白馬村	60,556	77,724	100,310
長野県	360,938	465,240	708,282
白馬村構成比	16.8	16.7	14.2

- ② 全国募集により、他県からの人材流入も期待できるため

○ 国際観光科への県外からの入学状況

区分	県外出身生徒数	出身都道府県
28年度	13名/38名	東京、神奈川、千葉、静岡、群馬、新潟、愛知、滋賀、鳥取、福岡
29年度	18名/34名	北海道、埼玉、東京、新潟、愛知、大阪、広島、長崎、鹿児島、ベトナム(日本人)

- ③ 白馬村と小谷村から、白馬高校への積極的な支援策が提案されたため

○ H28年度

【予算額】

白馬村68百万円 小谷村15百万円 計83百万円

【支援内容】

- ・ 語学学習、観光教育への支援
- ・ 寮の設置運営費用の負担
- ・ 進学希望者を対象とした公営学習塾の設置運営
- ・ 生徒への就労インターンシップの機会提供
- ・ スキー部への支援 など

○ H29年度

【予算額】

白馬村50百万円 小谷村19百万円 計79百万円

【支援内容】

28年度と同様



白馬村のスキー場に訪れる外国人観光客



外国人観光客にインタビューする生徒



新たに設置された寮



キャリア教育充実のための講演会の開催
「星野リゾート代表 星野佳路」氏

県立高校再編（前期再編）の評価

— 「県立高校再編（前期再編）の評価と今後の課題」（H26.6） —

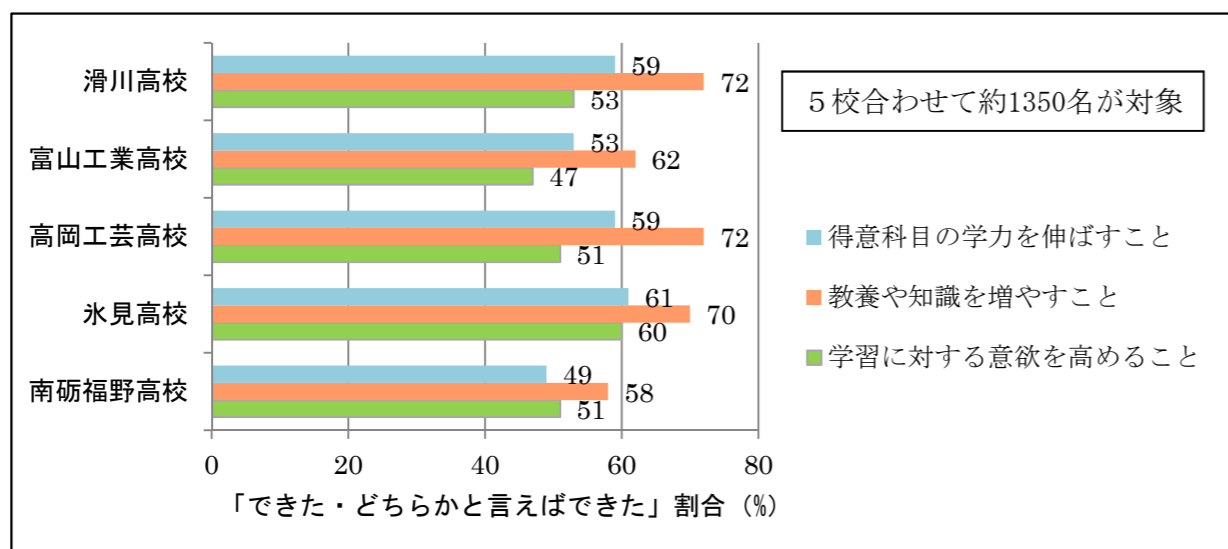
【総括的評価】

- 前期再編により、本県の全日制高校における学校規模が確保され、学習活動、学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨できる教育環境が整備された。
- 再編された新高校においては、統合した二つの学校の良いところを引き継ぎ、魅力ある学校づくりをすすめ、教育内容の充実が図られている。
- 総合選択制・ものづくり学などの新しい試みや地域に根ざした教育活動、新しく設置された施設設備などによって、生徒の学習意欲が向上している。
- 他学科との交流、活性化した部活動の中で、生徒の規範意識も向上している。新高校を卒業した生徒は、母校に対する誇りを持ち、地域に根ざした形で社会に出ている。

【評価の根拠】

1 教育活動の充実

＜生徒対象のアンケート（H25.11）結果より＞



2 部活動の活性化

平成21年度		平成25年度	
高校名	部活動数	高校名	部活動数
海洋高校	11	滑川高校(18学級)	26
滑川高校	23		
大沢野工業高校	19	富山工業高校(24学級)	31
富山工業高校	27		
二上工業高校	16	高岡工芸高校(21学級)	30
高岡工芸高校	28		
有磯高校	17	氷見高校(21学級)	31
氷見高校	24		
南砺総合井波高校	14	南砺福野高校(21学級)	32
南砺総合福野高校	31		

3 志願状況

◎再編前（H18～21年度入試）

旧学科(定員)	H18	H19	H20	H21
海洋高等学校				
海洋技術スポーツ(50)	0.62	0.38	0.60	0.83
海洋食品情報(30)	2.40	0.87	1.11	1.29
有磯高等学校				
農業科学(30)	1.43	1.00	1.68	0.52
漁業(12)	0.67	0.92	1.33	1.17
水産食品(18)	1.36	1.47	1.21	0.80
生活福祉(40)	1.68	0.96	0.86	0.70
南砺総合井波高等学校				
福祉(50)	0.94	1.27	0.81	1.41

◎再編後（H22～25年度入試）

新学科(定員)	H22	H23	H24	H25
滑川高等学校				
海洋(40)	2.32	2.05	2.55	2.20
氷見高等学校				
農業科学(20)	3.64	1.67	2.42	2.00
海洋科学(20)	3.36	2.00	1.75	2.50
生活福祉(40)	2.30	1.50	1.45	1.15
南砺福野高等学校				
福祉(40)	1.52	1.45	1.00	1.13

4 中学校長の意見（新高校に多くの生徒が入学している10中学）

○中学校は新高校をどのように見ているのか

- ・学科の選択幅が広く、多様な進路に対応できるなど学校の特色が明確である。
- ・部活動は、小さい学校だと強くなりやすく、なかなかモチベーションが上がらないが、大きな学校となり部活動にも積極的に取り組める。
- ・生活面もしっかりしており、落ち着いて学業も部活動も頑張っている。
- ・ものづくり中心に工業系の専門科目について丁寧に指導してもらっている。

○中学生は新高校をどのように見ているのか

- ・生徒は、メリハリがあり、きちんと挨拶ができ、服装もしっかりしているという印象を持っている。
- ・普通科に行く子は進学したいと思い、職業科へ行く子は部活動をやりながら頑張ろうと思っている。
- ・専門学科の実習が充実していると思っている。

○保護者は新高校をどのように見ているのか

- ・部活動も一層活性化し、就職も有利なので、安心して進学させられると思っている保護者が多い。
- ・再編統合によって学校全体が活気づいているという印象をもっているようだ。
- ・部活動でも学習と両立するように指導してくれる学校だと思っている。

5 新高校長の意見（5校）

- ・生徒同士が切磋琢磨できる教育環境の下で教育力の向上を図ることが、5校とも見事に成し遂げられている。
- ・学校のこれまでの伝統を引き継ぎ、よいところを伸ばしていくという点で計画はうまくいっている。それぞれの学校のよかった点を生かしていくというところで成功している。
- ・再編した2つの学校の力を合わせて活性化している。
- ・部活動については非常に活性化している。この活性化が、生徒の生活面における向上にもつながっている。
- ・地域と連携した学習や、地域行事への参加、ボランティア活動など、地域の方々に受け入れられている活動が数多くあり、地域への貢献度も高い。
- ・総合選択制の活用など、様々な努力により生徒達の学習意欲は向上している。

県立高校の工業科について

1 現状

学校名	学科名	定員 (H29)	進路状況 (H29.3卒)
桜井	土木	40	進学 14名(35.0%) 就職 26名(65.0%) 〔求人 114名(4.4倍) 内定 26名(100%)〕
魚津工業	機械	80	進学 33名(22.3%) 就職 115名(77.7%) 〔求人 851名(7.4倍) 内定 115名(100%)〕
	電気	40	
	情報環境	40	
	小計	160	
滑川	薬業	40	進学 18名(45.0%) 就職 22名(55.0%) 〔求人 112名(5.1倍) 内定 22名(100%)〕
富山北部	くすり・バイオ	40	進学 16名(41.0%) 就職 23名(59.0%) 〔求人 178名(7.7倍) 内定 23名(100%)〕
富山工業	機械工学	80	進学 79名(25.1%) 就職 236名(74.9%) 〔求人 956名(4.1倍) 内定 236名(100%)〕
	電子機械工学	40	
	金属工学	40	
	電気工学	80	
	建築工学	40	
	土木工学	40	
	小計	320	
高岡工芸	機械	40	進学 123名(47.9%) 就職 134名(52.1%) 〔求人 1,174名(8.8倍) 内定 134名(100%)〕
	電子機械	40	
	電気	40	
	建築	40	
	土木環境	40	
	工芸	30	
	デザイン・絵画	40	
	小計	270	
砺波工業	機械	80	進学 40名(26.5%) 就職 111名(73.5%) 〔求人 650名(5.9倍) 内定 111名(100%)〕
	電気	40	
	電子	40	
	小計	160	
	合計	1,030	

県立高校における工業科の定員割合 14.3%
(石川県 13.2% 福井県 13.1% 全国 9.8%)

2 「県立学校整備のあり方等に関する報告書」における提言

(1) 定員

- ・平成27年における定員割合は、工業科が14.3%となっている。
- ・工業系の定員割合については、ものづくり教育の重視の観点から、現在の定員割合を維持することが望ましい。

(2) 学科の配置

- ・地域産業を支える人材育成、地域バランスに配慮した工業科高校の配置などの点に配慮し、県東部と県西部に各1校あるものづくりの中核校を含め、県内4地区に各1校、工業科単独校を配置することが望ましい。
- ・普通科に併設された1学級の工業科については見直すことが望ましい。ただし、伝統産業の担い手の育成や地域のニーズ等必要性が高い場合は、当面継続することが望ましい。

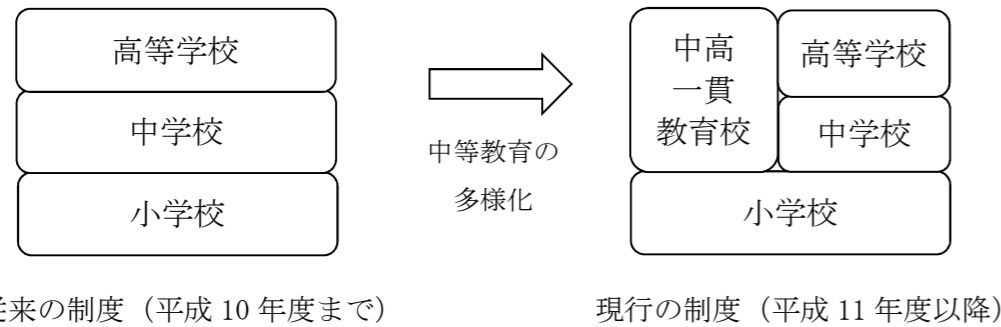


中高一貫教育制度について (文科省資料等より)

1 中高一貫教育制度

中高一貫教育は、生徒や保護者が、これまでの中学校・高等学校に加えて、6年間の中高一貫教育をも選択することができるようにすることにより、中等教育のより一層の多様化を推進するものとして、平成11年4月から制度化されている。

中高一貫教育校に、どのような学科を設けるか、さらには、どのような特色を持つ教育内容にするかは、学校の設置者である都道府県や市町村等が判断することになる。



2 中高一貫教育の特色

- ・安定した環境の中で、6年間の学校生活を送ることができる。
- ・6年間の計画的・継続的な教育指導を展開することができる。
- ・6年間にわたり生徒を把握することができ、個性の伸長や優れた才能を発見できる。
- ・学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し、社会性や豊かな人間性を育成できる。

3 中高一貫教育の実施形態

(1) 中等教育学校

- ・1つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの。
- ・前期課程は中学校の基準を、後期課程は高等学校の基準を準用。

(2) 併設型の中学校・高等学校

- ・高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するもの。

(3) 連携型の中学校・高等学校

- ・市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態で、中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深めるもの。

4 入学者選抜

(1) 中学入試

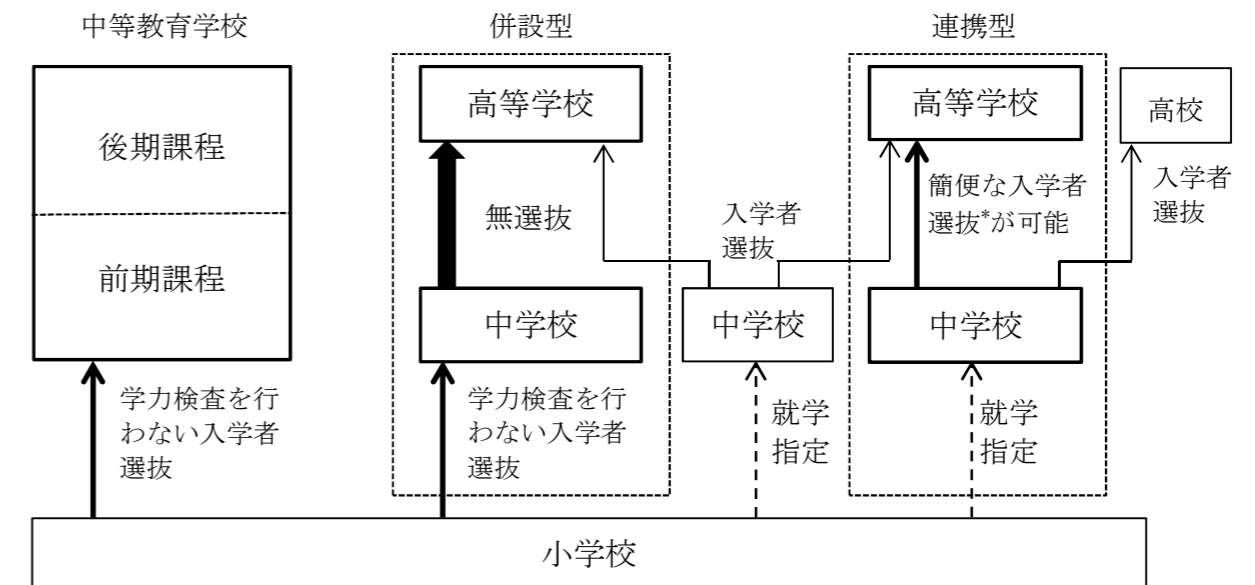
公立の中等教育学校や併設型中学校においては、設置者の定めるところにより校長が、入学者を許可し、この場合、学力検査は行わないこととしている。

(2) 高校入試

併設型中学校から併設型高等学校への進学に際しては、入学者選抜は行わない。他の中学校から併設型高等学校への入学は入学者選抜が行われる。

連携型については、連携型中学校から連携型高等学校への進学の場合、調査書及び学力検査の成績以外の資料により選抜できている。

[公立の場合]



*調査書及び学力検査の成績以外の資料による選抜

平成 28 年度 都道府県立の中高一貫教育校設置状況

番号	都道府県名	中等教育学校	併設型	連携型	合計
1	北海道	1		6	7
2	青森		1	1	2
3	岩手		1	2	3
4	宮城		2	1	3
5	秋田		3		3
6	山形		1	2	3
7	福島		1	5	6
8	茨城	2	1	1	4
9	栃木		3		3
10	群馬	1		3	4
11	埼玉		1		1
12	千葉		2	1	3
13	東京	5	5	6	16
14	神奈川	2		2	4
15	新潟	6	1		7
16	富山				
17	石川		1	1	2
18	福井		1	4	5
19	山梨				
20	長野		2		2
21	岐阜			4	4
22	静岡		2	3	5
23	愛知			2	2
24	三重			2	2
25	滋賀		3		3
26	京都		3		3
27	大阪			2	2
28	兵庫	1	1	2	4
29	奈良		1	1	2
30	和歌山		5		5
31	鳥取				
32	島根			2	2
33	岡山	1	3	1	5
34	広島		1	5	6
35	山口	1	1	1	3
36	徳島		3	2	5
37	香川		1		1
38	愛媛	3			3
39	高知		3	4	7
40	福岡	1	4		5
41	佐賀		4		4
42	長崎		3	5	8
43	熊本		3	1	4
44	大分		1	2	3
45	宮崎	1	2		3
46	鹿児島		1	2	3
47	沖縄		3	3	6
合計		25	74	79	178

石川県、福井県の中高一貫教育校設置状況

(H28文科省調査等より)

【石川県】

設置年度	設置形態	設置者	学校名	1学年		H29.3入試		備考
				クラス数	定員	受検倍率	募集定員充足率	
H16	併設型	石川県	金沢錦丘中学校	3	120	1.64	100%	既設の高等学校に新設の県立中学校を併設
			金沢錦丘高等学校 普通科	8	320	1.47	100%	
H13	連携型	輪島市	門前中学校	1	40	—	—	既設の中学校と既設の高等学校の連携
		石川県	門前高等学校 普通科	2	80	0.27	34%	

【福井県】

H26	併設型	福井県	高志中学校	3	90	3.73	100%	既設の高等学校に新設の県立中学校を併設
			高志高等学校 普通科	6	234	1.47	100%	
H13	連携型	池田町	池田中学校	1	30	—	—	既設の中学校と既設の高等学校の連携
		福井県	武生高等学校池田分校 普通科	1	25	0.30	36%	
H17	連携型	あわら市	芦原中学校	1	30	—	—	既設の2中学校と既設の高等学校の連携
		あわら市	金津中学校	6	180	—	—	
		福井県	金津高等学校 普通科	7	224	1.00	100%	
H17	連携型	越前町	朝日中学校	3	90	—	—	既設の中学校と既設の高等学校の連携
		福井県	丹生高等学校 普通科	5	140	0.98	99%	
H17	連携型	若狭町	三方中学校	3	90	—	—	既設の2中学校と既設の高等学校の連携
		美浜町	美浜中学校	3	90	—	—	
		福井県	美方高等学校 普通科、家庭科	5	156	0.98	98%	

検討委員会での中高一貫教育に関する主な意見

○ 積極的な意見

- ・もっと個性を伸ばし、多様化する子供たちを育てる学校があってもよく、進学校の一つがそのような中高一貫校になってもよいのではないかと思う。
- ・自分で自分の人生を切り拓くことができ、社会の役に立つ人材を育成するために中高一貫校を設置すべき。
- ・中高一貫校が、予備校化するのではないかという危惧はあるが、県内に1校くらいあってもよいのではないかと思う。

○ 慎重な意見

- ・中高一貫校ができた周辺地域には大きな影響がある。リーダー的な存在として期待される生徒が中高一貫校へ進学することで地元の中学校が弱体化するのではないかという心配がある。
- ・広域で通学できる富山県にとって他県の中山間地でのような連携型の中高一貫教育の必要性は低い。
- ・設置される場所によっては、子どもを通わせることに躊躇する保護者もいて、新たな地域格差が生まれる可能性がある。
- ・中高一貫教育が優秀な大学に入学させることを主な目的とする教育方針となれば疑問を感じる。
- ・学力検査による入学選抜ができないため、生徒間の学力差が生ずることとなり、生徒一人ひとりにとって望ましい教育環境なのか疑問。
- ・他県では、県立高校と公立中学校の連携型中高一貫校の定員充足率が低い学校もあり、心配だ。
- ・保護者の間では中高一貫校があればよいという機運は高まっているとは思えない。